

2023年7月20日 ご面談要旨

東京電力HD(株)

東京電力HD(株) 平成29年の適格性判断の再確認 事前準備について

7月12日原子力規制委員会です承されました当社に対する「平成29年の適格性判断の再確認の進め方」につきまして、以下の議論をさせていただきます。

1. 当社取組状況の公開会合に向けた準備について

現在当社において、「柏崎刈羽原子力発電所の保安規定に定める原子力事業者としての基本姿勢」（7つの約束）に関する当社内の取組及び取組に対するエビデンスについて整理しているところですが、公開会合に向けた当社が準備すべきアイテムについて確認させていただきます。

2. 当社からの確認事項について

(1) ロジ関係

- ・ 会合／基本検査の日程・期間
- ・ 会合の回数（1度？項目ごと複数回？）
- ・ 規制庁殿の体制（当社側の会議室の必要広さなど）
- ・ 会合準備のヒアリングの有無

(2) 会合／基本検査における確認方法

- ・ 確認の範囲（例 基本姿勢の4,5,7の当社取組の中からサンプリング）
- ・ 基本検査実施のイメージ（例 QMS検査のように事前に資料の要求があり、会議室等で必要に応じて聞取りが行なわれる等）
- ・ マニュアル等非公開文書の扱い・提示方法
- ・ 基本検査の場所
- ・ 現場確認の有無

(3) その他

以上

(別紙)

## 柏崎刈羽原子力発電所の保安規定に定める原子力事業者としての基本姿勢

社長は、福島第一原子力発電所事故を起こした当事者のトップとして、二度と事故を起こさないと固く誓い、福島第一原子力発電所の廃炉はもとより、福島復興及び賠償をやり遂げる。

社長の責任のもと、当社は、福島第一原子力発電所の廃炉をやり遂げるとともに、終わりなき原子力発電所の安全性向上を両立させていく。

その実現にあたっては、地元の要請に真摯に向き合い、決して独りよがりにはならず、地元と対話を重ね、主体性を持って責任を果たしていく。

1. 柏崎刈羽原子力発電所を運転する事業者の責任として福島第一原子力発電所の廃炉を主体的に取り組み、やりきる覚悟とその実績を示す。  
廃炉を進めるにあたっては、計画的にリスクの低減を図り、課題への対応について地元をはじめ関係者の関心や疑問に真摯に応え、正確な情報発信を通じてご理解を得ながら取り組み、廃炉と復興を実現する。
2. 福島第一原子力発電所の廃炉に必要な資金を確保した上で、柏崎刈羽原子力発電所の安全性を向上する。  
福島第一原子力発電所の廃炉をやり遂げるとともに、柏崎刈羽原子力発電所の安全対策に必要な投資を行い、安全性向上を実現する。
3. 原子力発電所の運営は、いかなる経済的要因があっても安全性の確保を前提とする。
4. 不確実・未確定な段階でも、リスクを低減する取り組みを実施する。  
社長は、自ら安全に絶対はないということを経営層及び社員と共有する。重大なリスクを確実にかつ速やかに把握し、安全を最優先した経営上の判断を行うとともに、その内容を社会に速やかに発信する。また、世界中の運転経験や技術の進歩を学び、継続的なリスク低減を実現する。
5. 規制基準の遵守にとどまらず、自主的に原子力発電所のさらなる安全性を向上する。  
現場からの提案、確率論的リスク評価の活用、国内外の団体・企業からの学びによる改善、過酷事故の訓練等を通じて、自主的にさらなる安全性向上を実現する。
6. 社長は、原子炉設置者のトップとして原子力安全の責任を担う。
7. 社内の関係部門の異なる意見や知見を一元的に把握し、原子力発電所の安全性を向上する。現地現物の観点で発電所における課題を抽出し、本社・発電所の情報を一元的に共有し改善することで、安全性向上を実現する。